

平田未来ビジョン

== Hirata Diamond  ==

平成 30 年 11 月

平田商工会議所
(出雲市東部都市拠点地区活性化協議会)

～目 次～

- 1 ビジョン策定の目的
- 2 策定の方法
 - (1) 策定の経緯
 - (2) 語の定義
- 3 現状分析
- 4 平田地域がめざす将来像
- 5 将来像実現のための振興策
- 6 まち造りのあり方（ハード面から）
 - (1) まち造りの視点
 - (2) 中心部の整備の考え方
 - ①ワークショップの結果
 - ②中心部の機能強化
 - ③新たな拠点（複合施設＋駅周辺）に必要な施設・機能
 - ④複合施設のイメージ、周辺整備
- 7 今後の取り組み計画

■資料

- ・ 出雲市東部都市拠点地区活性化協議会規約
- ・ 同 会員名簿
- ・ 協議の経緯
- ・ 平田地域の公共施設の状況
- ・ ワークショップ概要

1 ビジョン策定の目的

平田商工会議所創立 70 周年を機に、出雲市東部の都市拠点である平田地域（旧平田市区域）の今後の産業・経済の活性化の方策や、必要な地域機能について検討し、その実現に向けて平田商工会議所（以下「当所」）が会員事業所や各事業所及び行政など関係機関と共に取り組むための指針とする。

2 策定の方法

当所に設置されている「出雲市東部都市拠点地区活性化協議会」（平成 18 年度設立、平成 29 年度改組、大谷厚郎会長、会員 12 名、以下「協議会」）において検討、策定した。※協議会の会員構成・規約等は資料のとおり

中心部のまち造りについては、協議会会員に島根大学学生・平田高校生らも加えてワークショップも行って検討した。

（1）策定の経緯（協議会の開催状況）

回数	協議会開催日時	開催場所	主な審議内容等
1	平成 30 年 1 月 19 日(金)	平田商工会議所	・会員委嘱、協議会の規約改正 ・平田地域の現状と課題について
2	平成 30 年 2 月 26 日(月)	平田商工会議所	・平田地域内公共施設のあり方について
3	平成 30 年 4 月 4 日(水)	平田商工会議所	・公共施設のあり方及び立地場所について
4	平成 30 年 4 月 25 日(水)	平田商工会議所	・民間主導による公共施設の建設、運営について ・中核公共施設の必要施設及び機能について
5	平成 30 年 5 月 29 日(火)	平田商工会議所	・中核拠点及び駅拠点の必要機能について ・地域振興及び産業振興について
6	平成 30 年 7 月 4 日(水)	平田商工会議所	・地域振興及び産業振興について
7	平成 30 年 8 月 9 日(木) 【ワークショップ】 「平田中心部のまち造りに ついて」	平田中心部 現地調査 ・ 平田商工会議所	■参加者 29 名 (内訳) 協議会会員 9 名 平田商工会議所女性会 3 名 同青年部 3 名 平田青年会議所 3 名 平田高校生徒 6 名 島根大学・同大学院学生 5 名 ■指導 大阪市立大学 中野茂夫教授 島根大学 細田智久教授、三島幸子助教
8	平成 30 年 10 月 31 日(水)	平田商工会議所	・「平田未来ビジョン」とりまとめについて

(2) 語の定義

本ビジョンにおける用語は概ね次の定義で用いている。

- 平田地域 : 旧平田市の全域
- 中心部 : 旧平田町の環状線の内側及び外縁部
- 周辺部 : 平田地域の旧平田町以外の区域
- 松江 : 国宝松江城や県都機能のある主に旧松江市エリア
- 出雲 : 出雲大社及び旧出雲市の都市機能・産業集積あるエリア
- 湖西地域 : 島根県東部のうち概ね宍道湖より北西部のエリア
- まち造り : 公共施設や道路など主にハード面での地域機能の整備

3 現状分析

(1) 人口動態

◆近年の出雲市内の地域別人口と世帯数

出典：出雲市HPより

	H22年	H27年		H30年9月末		H22→H30 増減率	備考
	人口	人口	対前年比	人口	対前年比		
人口 出雲市全体	174,813	174,957	100.08%	175,724	100.44%	0.52%	
旧出雲市	90,587	92,582	102.20%	94,434	102.00%	4.25%	
旧平田市	27,550	26,116	94.79%	25,324	96.97%	-8.08%	減少
旧斐川町	27,689	28,727	103.75%	29,181	101.58%	5.39%	
旧その他地域	28,987	27,532	94.98%	26,785	97.29%	-7.60%	
世帯数 出雲市全体	59,138	63,231	106.92%	65,953	104.30%	11.52%	
旧出雲市	32,653	35,404	108.42%	37,386	105.60%	14.49%	
旧平田市	8,395	8,478	100.99%	8,575	101.14%	2.14%	微増
旧斐川町	8,228	9,394	114.17%	10,011	106.57%	21.67%	
旧その他地域	9,862	9,955	100.94%	9,981	100.26%	1.21%	

- ・平田地域は減少傾向。
- ・世帯数も旧出雲市・斐川町は増加傾向だが平田地域においては微増にとどまる。

◆将来の人口推計

出典：国立社会保障・人口問題研究所

	H30.9 (2018)	H32 (2020)	H42 (2030)	H52 (2040)	H30→H52 減少率
出雲市	175,724	171,491	168,060	162,205	-7.69%
島根県	679,626	670,000	615,000	558,000	-17.90%
日本国	124,354,431	125,325,000	119,125,000	110,919,000	-10.80%

- ・将来の人口推計の予測では国、県は10%以上の人口減少。
- ・現在微増している出雲市についても8%弱の人口減少と推計。

(2) 事業所数

出典：平田商工会議所管内事業者数調べ

年度	商工業者数	対前年比	開業数	廃業数	開業－廃業
H23.4 現在	1,431	—	13	11	2
H25.4 現在	1,421	△0.7%	18	22	△4
H27.4 現在	1,408	△0.9%	17	24	△7
H29.4 現在	1,380	△2.0%	19	23	△4

- ・商工業者数は毎年減少。近年の減少幅は拡大傾向にある。
- ・開業は毎年あるものの、それ以上の廃業があり事業所数維持は難しい状況。

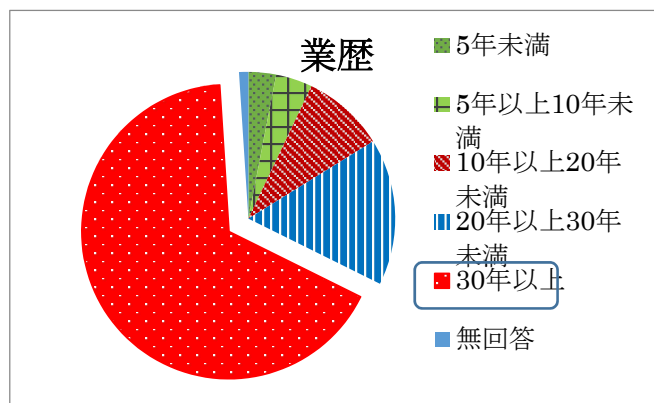
(3) 事業承継の状況 《H27.12 平田商工会議所実施「事業承継アンケート」結果より N=99》

【業歴】

- ①30年以上 66.7%
- ②20年以上 30年未満 16.7%
- ③10年以上 20年未満 9.4%

◆業歴を見ると、全国より相対的に管内事業所は長い。

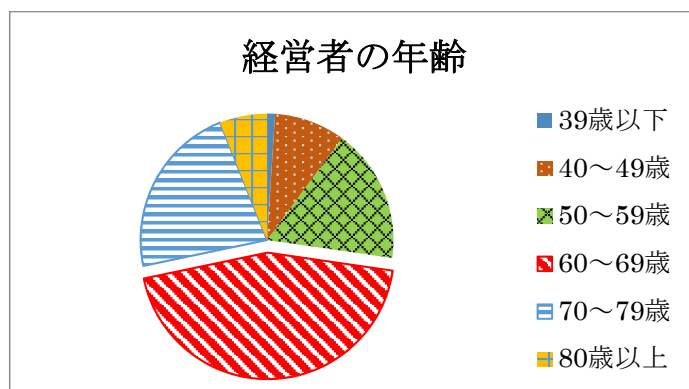
(※2017年 全国倒産企業の平均業歴 23.5年)



【経営者の年齢】

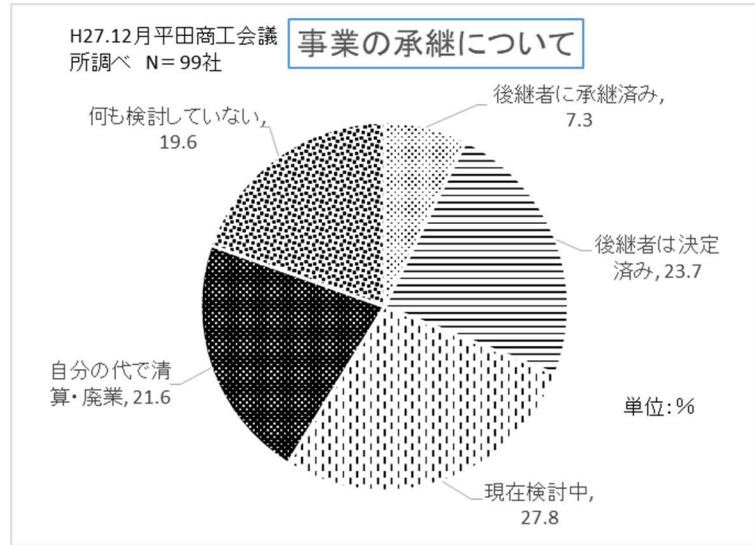
- ①60～69歳 45.4%
- ②70～79歳 21.6%
- ③50～59歳 16.5%

◆経営者の年齢は、7割が60歳以上である。



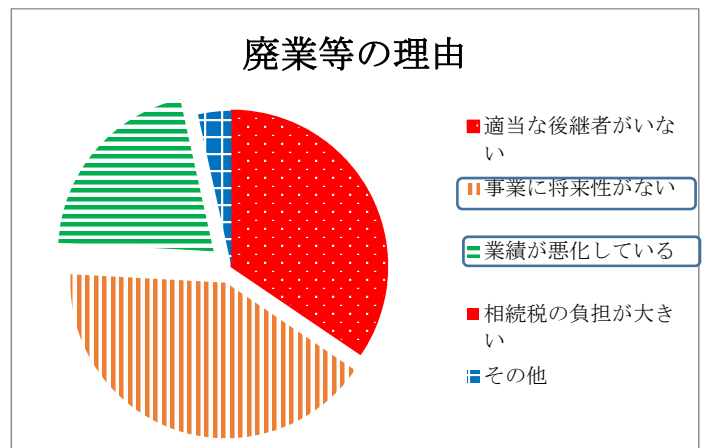
【事業の継続について】

- ①後継者に承継済み 7.3%
 - ②後継者が決定した 23.7%
 - ③現在検討中 27.8%
 - ③自分の代で清算、廃業 21.6%
 - ④何も検討していない 19.6%
- ◆事業継続の断念を2割の経営者が考えている。



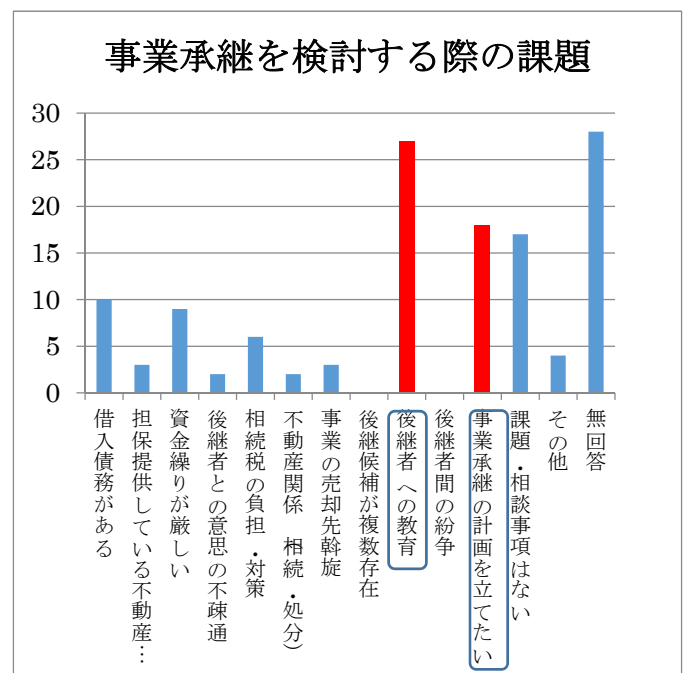
【事業売却、清算、廃業される理由】

- ①事業に将来性がない 40.7%
 - ②適当な後継者がいない 37.0%
 - ③業績が悪化している 18.5%
- ◆①、③のように現在の事業に不安がある経営者が6割近く。



【事業承継の課題】

- ①後継者への教育 27.6%
 - ②事業承継計画の立案 18.4%
 - ③課題・相談事項はない 17.3%
 - ④借入債務がある 9.2%
 - ⑤資金繰りが厳しい 9.2%
- ◆①、②のようなソフトの問題もあるが、④、⑤のような資金面での課題、即ち経営改善の必要な事業所もある。



(4) 平田地域の強み、弱み、チャンス、懸念材料等

<p>●強み</p> <ul style="list-style-type: none"> ・松江、出雲の中間点でどちらの通勤圏でもある ・松江、出雲の中間点でどちらにも近い ・空港、高速道路ICが近い ・河下港がある ・中心部はコンパクトに都市機能が集積 ・まちなかに木綿街道という歴史景観が残る ・木綿街道は観光・イベントの集客力がある ・木綿街道に新たな宿泊飲食拠点が開発中 ・縁切りもある宇美神社、温泉ゆらりが木綿街道と連なる ・平田発祥の商店街人生ゲームがある ・一式飾りが街中に常設展示されている ・中心部に川や緑が多い ・鰐淵寺、一畑薬師など古刹がある ・韓竈神社(安産祈願)に参拝者あり ・パワースポットがある(立石神社等) ・バードウォッチのポイントがある ・若い工芸家、料理人、デザイナー等が少しずつ増えている ・若いUITターン、後継者が一次産業で起業、事業承継あり ・一次産業と商工会議所のつながりがある ・地域に愛され域外から高評価の飲食店が多くある ・一畑電車がある ・電車の運転体験ができる ・県東部一円から生徒が通う公立高校がある ・多くの生徒が電車通学利用している ・愛宕山公園(動物ふれ合いあり)、サンレイク、湖遊館など域外から集客力ある施設あり ・庭園ランキングに入る庭園がある ・平田体育館の利用は多い(出雲体育館以上) 	<p>●チャンス、機会、ポテンシャル</p> <ul style="list-style-type: none"> ・出雲大社など集客力ある観光拠点が近い ・外国人観光客が地方に関心向けつつある ・斐川エリア、出雲エリアの人口増加傾向 ・外国人労働者の増加見込み ・外国人コミュニティ向けビジネスチャンス ・県立大学出雲キャンパスが近い ・島根県水産技術センター内水面浅海部がある ・出雲弁の本場、LINEスタンプもある ・環状線区域をコンパクトシティのモデル候補に ・松江～出雲大社の道中、立ち寄り場所、休憩場所が少ない ・斐伊川、宍道湖、日本海3水系をもつ地域 ・湖、海でマリンスポーツの可能性 ・旅伏山でスカイスポーツ、空レジャーの可能性 ・海岸線が長く浦々に集落、釣りスポットあり ・定置網漁業が3社(若い漁師もいる) ・遠浅の海水浴場あり(河下、子供に安全) ・小学校の統廃合計画が進行中(建設業の受注機会、空校舎の活用等) ・印刷業の歴史、集積がある ・鋳物産業の集積がある ・福祉施設が多い ・国内最大規模の風力発電施設 ・ひらたCATV加入率高い(78%) ・平田の若年層が平田地域を深く知らない傾向(魅力訴求の余地あり)
<p>●弱み、課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・観光商品(ツアー)化されているものが少ない ・空家空き店舗が増加中 ・駅前の賑わいが少ない ・雲州平田駅南側からのアクセスが悪い ・一式飾りの後継者難、展示環境も難 ・湖遊館など集客拠点到立ち寄っても平田地域内の回遊が少ない ・観光案内所がない ・SNS対応力が低い ・観光拠点、パワースポットが点在、二次交通がない ・近いがゆえに若年層が出雲・松江に転居あり 	<p>●懸念材料、脅威</p> <ul style="list-style-type: none"> ・わが国の人口が減少に向かう ・斐川エリアの人口増、商業集積が増 ・出雲に大型商業集積が拡大 ・平田地域の少なからぬ老舗、事業所が事業承継難 ・一畑電車の利用客が伸び悩む ・農村文化、農村コミュニティ衰退の兆し

(5) 公共施設の見通し（築年数、市の存続方針等）

①「出雲市公共施設のあり方指針（平成 27 年 3 月）」による「廃止」方針施設

- ・平田一式飾常設館（昭和 57 年整備） → 廃止
- ・平田体育館（昭和 43 年整備） → 廃止
- ・出雲平田 B&G 海洋センター（平成 4 年整備） → 廃止

②商工会議所ビル（3～5F は勤労青少年ホーム）・・・雨漏り、地盤沈下等が著しく、修繕には相当の金額を要する見込みで、修繕の目途は立たない。

※勤労青少年ホームは平成 31 年 3 月末日で用途廃止（平成 30 年 11 月 2 日出雲市議会全員協議会）。

③平田支所・平田コミセン・・・築 50 年以上経過、老朽化著しい

(6) 平田地域の基本的な方向 ～上記現状をふまえて～



□人口が増えない中、交流人口に重きを置き、そこから定住につなげる。
交流人口のもとには平田に好意や関心を持つファン人口。

ファン人口 > 交流人口 > 定住人口

□平田地域がもつ優位性、独自性、地域資源をフルに活かす。

□企業は経営者の高齢化が進むなか、事業承継と新規創業が 2 大テーマ。

□地域全体の高齢化が進むなか、若年層が力を発揮しやすい環境づくりを。

□平田地域の活力維持のためには、①生活を支える都市機能の充実、②交流人口拡大には受入口（玄関）と各地への移動・展開拠点（ハブ拠点）が重要、との視点から中心部の機能整備・充実が求められる。

□公共施設は複合化、一体化によりコストを抑えつつ多様な機能を維持。

4 平田地域がめざす将来像

○交流人口・ファンが多く、定住が進む平田地域

人口減少時代のなか、①住んでいなくとも平田地域を訪れる交流人口や、②地域外から平田地域を応援し関心をもってくれるファン（ひと）が多く、③その中から定住が生まれる地域に。木綿の集散地からひとの集散地・往来拠点に。

○好立地を活かす平田地域

松江と出雲の中間点で、空港や高速道路 IC から至近好立地を活かし①観光客の往来が多く、②サテライトオフィスや遠隔・在宅勤務の環境がととのい、③住環境のよさで居住も増える地域に。さらに④河下港を活かし物流の拠点に。

○湖西地域及び島根半島への結節点となる平田地域

中海・宍道湖・大山圏域における湖西地域および島根半島へのターミナル（駅・交通拠点）、ハブ拠点（周辺への連結拠点）に。

○中心部と周辺部のバランスよい平田地域

買物・医療・教育文化・行政などがコンパクトにまとまっている中心部と、自然あふれる周辺部・沿岸部のバランスがよく、年代問わず住みやすい地域に。

○地域資源が光る平田地域

歴史文化、パワースポットや観光資源、斐伊川・宍道湖・日本海 3 つの水系や南向きの斜面を生かした山間地の食の恵み（柿・お茶等）、独自の芸能文化（一式飾りや河下盆踊り等）、町なかに川が流れるなど自然と一体感ある中心部など、地域の誇りがひとをよびこむ。

○企業が元気な平田地域

事業継続が地域を支え、新事業や新商品の開発チャレンジが明日の地域をつくる

○人を活かす平田地域

次代を担う若者、事業を引き継ぐ後継者、農林漁業を含む独立・起業創業者、こだわりの店を開業したり工芸やITなどに秀でた匠、などを地域全体で育てていく。



○来たい平田、住みたい平田に

○木綿の集散地から人の集散地・往来地に

5 将来像実現のための振興策

○交流人口・定住人口を増やす

- 観光の振興
 - ・ 観光資源の発掘
 - ・ 体験メニューの開発
 - ・ 観光ルートの開発
 - ・ 地域食材によるメニュー開発
 - ・ 観光案内機能の強化（道の駅機能（後述）など）
 - ・ 情報発信、SNSへの対応の強化
 - ・ 新たな目玉の検討（一式飾り・電鉄博物館・平田歴史展示施設・出雲弁劇場など）
 - ・ 観光振興プランの策定
 - ・ 観光振興プロデューサの配置

- 回遊の促進
 - ・ 広域集客力ある湖遊館・ゴビウス・サンレイクなどへの来訪者を平田地域全体に回遊させ交流人口化する工夫、仕掛けを

- 都市交流の促進
 - ・ 都市部でリタイアした人材の移住、二地域居住の促進
 - 日本版CCRC（生涯活躍のまち）の推進
 - 雇用の場＋医療機関、社会福祉法人等との連携

- U I ターンの促進
 - ・ 受け入れ拠点の整備
 - ・ U I ターン専門コーディネータの配置
 - ・ 定年後のUターン促進
 - ・ 地域情報の発信強化

- 定住の促進
 - ・ 居住環境のよさ、通勤の利便性を発信・アピール
 - ・ 住宅団地の開発

- 空家空き店舗活用
 - ・ 空家情報のデータベース化
 - ・ 古民家のデータベース化
 - ・ 空家・古民家の紹介、マッチング
 - ・ 若手組織（NPO 法人ひらた空き家再生舎）との連携
 - ・ 古民家・空家再生モデル事業の実施

古民家・空家を改修してまちの立ち寄りスポットや店舗等として活用するモデル事業 → 周辺への波及、複数展開を期待

○好立地を活かす

- 観光動線の再構築
 - ・ 空港連絡バスの雲州平田駅経由ルート化
- ビジネス拠点に
 - ・ サテライトオフィス・在宅勤務の環境整備
 - ・ 松江・出雲のIT関連事業者へのアピール
 - ・ 空家・空き店舗の活用（再掲）
- ビジネス催事誘致
 - ・ 研修会・会議・展示会などの平田地域開催を増やす
 - ・ 松江・出雲の中間という好立地を経済界にアピール
- 定住の促進
 - （再掲）
- 物流拠点に
 - ・ 河下港を活かした物流の拠点化

○湖西地域・島根半島への結節点に

- 交通インフラ活用
 - ・ 雲州平田駅の活用
 - ・ 河下港の活用（再掲）
- ハブ機能の強化
 - ・ 雲州平田駅に道の駅を併設

○中心部と周辺部のバランスよく

- 居住環境のよさ発信
 - ・ 中心部にコンパクトな都市機能集積、中心部の都市機能と周辺部の自然のほどよい調和等を発信
 - ・ 川・湖・海の3水系や山間地からの食材の恵みを発信
- 移動手段確保
 - ・ 平田駅を中心に周辺部と中心部のアクセスを確保
 - ・ 自動運転システム・EVなど新交通システムの実験導入
- 課題の先進地
 - [高齢化・人口減少での地域課題はいずれ国全体が直面]
 - ・ 平田地域の取り組みを発信で全体の課題解決に貢献

○地域資源をみがく

■一式飾り

- ・ 技能の継承
- ・ 関連する商品や体験機会の開発
- ・ 通年の展示方法、展示体制の構築
- ・ 街歩き・食など他のイベントの複合化
- ・ 全国の飾り物地域との連携

■食の恵みが味わえるまちに

- ・ 地域の食材を使ったメニュー開発、特産品の開発、情報発信
- ・ 農業者・漁業者と飲食業・食品製造業との連携促進
- ・ 地域食材を味わえるお祭りのイベント
- ・ 日本酒の神様とのコラボレーション
- ・ 食品製造業同士の連携、共同開発促進（醤油と干物等）
- ・ 酒・醤油など醸造業集積を活かした発酵関連産業の振興
[甘酒・漬物等の発酵食品から微生物・バイオ関連まで視野に]

■川・湖・海

[斐伊川・宍道湖・日本海の3水系が平田地域にあることを活かし]

- ・ 特色ある食材・自然・景観・レジャーの発信
- ・ 水環境の研究フィールドの可能性検討

■多様な地域資源をより磨く

- ・ 木綿街道、商店街人生ゲーム、鰯淵寺・一畑薬師などの古刹、宇美神社（縁切り）、一畑電車、ランキングに入る庭園、集客力ある湖遊館、愛宕山公園 等々

■新たな地域資源の発掘

○企業が元気に

■事業の承継

[現在の事業所・商店・工場は地域コミュニティを支える拠点であり、地域の経済・雇用の基盤であるとの確たる認識のもとで]

- ・ 各企業の事業承継への積極的な取組と支援機関(当所等)による総合支援

- 域外市場への挑戦
 - ・ 各企業による域外への販路開拓強化
 - ・ 各企業によるネットビジネスへの取り組み

- リピータを作る商売・ビジネス
 - ・ 各企業による特色ある商品、サービスの開発
 - ・ 世界一のローカル企業をめざそう

- 生産性向上
 - ・ 人手不足には生産性向上の設備投資を
 - ・ 生産性向上には絶えざる現場改善・業務改善を

- 切磋琢磨
 - ・ 商工会議所青年部・各部会等の活性化
 - ・ 多様なひと、企業との出会い・交流を促進

- 企業と大学等との連携強化
 - ・ 島根大学（総合理工学部・医学部・生物資源科学部等）
 - ・ 島根県立大学出雲キャンパス（看護栄養学部）
 - ・ 既に関係のある各研究室との関係強化（島根大学建築デザイン学科、島根県立大学松江キャンパス、群馬大学工学部、大阪市立大大学院生活科学研究科学、松江高等工業専門学校 等）

- 企業と知の拠点との連携強化
 - ・ 島根県産業技術センター、同農業技術センター、同水産技術センター内水面浅海部、市立総合医療センター等

- 産業の集積を活かす
 - ・ 鋳物関連産業、醸造業、印刷業、食品関連産業（和洋菓子、水産加工、練り製品等）など

○人を活かす

- 若者を育む
 - ・ 平田高校と連携、協働した地域づくり
 - ・ 各団体の枠を越えた活動支援(学校、各青年部、J C等)
 - ・ 地域が若者をサポート
 - ・ 地域が一丸となって子育て世代をサポート

- 匠人材を育む
 - ・ 事業承継する後継者へのサポート

- ・ 独立・起業創業人材のサポート（農林漁業含む）
- ・ 工芸・デザイン・アート人材の誘致、サポート
- ・ IT人材の誘致、サポート
- ・ 専門店・飲食店の誘致、サポート
- ・ 匠人材の事業拠点、活動・居住環境などのサポート

■地域活動の連携

- ・ 各地区（自治協会単位）の活動の横断的連携
- ・ 各事業所、業界などの若者会、青年部の連携

【定義／再掲】

「まち造り」：公共施設や道路など主にハード面での地域機能の整備

「平田地域」：旧平田市の全域

「中心部」：環状線の内側及び外縁部

「周辺部」：平田地域の旧平田町以外の区域

6 まち造りのあり方（ハード面から）

（1）まち造りの視点

■好立地を生かし立ち寄り易いまちに

- 東西軸（松江城－出雲大社）は通過交通、南北軸（雲州平田駅－愛宕山）は玄関的要素、それらを環状線が結んでいるが、クルマや電車利用客の立ち寄り拠点が乏しいことや、賑わいが低下しつつある南北軸の活性化が課題。

■雲州平田駅に「道の駅」、ターミナル機能やハブ機能を強化

- 電車の駅に道の駅を併設、島根半島への玄関口として魅力的な立ち寄り拠点とし、入り込み客の増や点在する観光資源へのアクセス改善をはかるとともに、平田地域内の周辺部と中心部の結節点として生活利便性の向上をはかる。

■コンパクトな中心部と人が回遊・交流するまち

- 高齢化社会を見すえ、できるだけ近距離で生活できるようなまちづくりを。
- 主要な都市機能（医療・買物・行政・文化教養等の拠点施設）はできるだけ郊外移転せず、中心部に。
- 中心部＝平田の「へそ」として重要な役割。
- 駅起点の南北軸（駅～支所・コミセン～木綿街道・ゆらり・愛宕山へ）を回遊の軸に。
- 中心部は、老朽化している行政・地域活動・防災・健康・文化教養・商工観光などの施設を南北軸上に再編整備し、併せてイベントや祭りの空間を内包することで、暮らしやすく観光客にも魅力的で、様々な交流が生まれるゾーンに。

■周辺部と中心部のバランス

- 周辺部に不足する都市機能は中心部に備え、周辺部と中心部のアクセスを確保。
- 周辺部も、自然環境や魅力を生かした余暇・健康・リフレッシュの場や、県内外の都市型企業のサテライトオフィスなど小さなビジネス拠点の形成等も促す。

■若者を育むまち

- ひろく県東部から生徒が通う平田高校は、当地域の次代を担う若者の象徴的存在。当地域は、平田高校生のみならず平田地域に関わる若者を育む孵卵器としての役割を果たすべく、まち造りにもその視点を持つ。

■民間活力の導入（PFI 手法等）

- 地元企業など民間の知恵・技術・資金等を活用して、行政と民間が適切な分担と連携をはかり、効果的・効率的な公共施設整備、公共サービス等を実現して行政負担の軽減につなげる。

(2) 中心部整備の考え方

① ■ワークショップの検討結果(平成30年8月9日ワークショップ実施29名参加)

9

～ 各班が作成した「中心部」のコンセプトおよびキーワード ～

A班	「水と人の流れるまち平田」＋「女性が集まると男性も集まる」
キーワード	<ul style="list-style-type: none"> ・河を利用した街並み作り ・いろいろな場所に一式飾り ・立ち寄りたくなる「道の駅」 ・電車乗車体験 ・電車展示資料館 ・面白物件の発見発信 ・学生と一緒に作る街 ・老若男女、住民観光客問わず楽しめる複合施設を ・人が多く集まる場所をつくる ・支所×美術館的な施設掛け合わせ

B班	「自然と一緒にになれる街」＋「歴史文化や自然と一緒にになれる街」
キーワード	<ul style="list-style-type: none"> ・木綿街道、風通りがよく涼しい ・中心部のプラタナスの大樹の存在感 ・雰囲気を作り出して回遊できる街に ・地域の子供たちが安全に遊べる公園 ・駅前通りの景観改善で木綿街道に近い雰囲気を演出(長屋商店街) ・地酒のテイスタング ・支所にピオトープを ・空家リノベーションで勉強スペースや団らんスペース(中高生の立ち寄り)

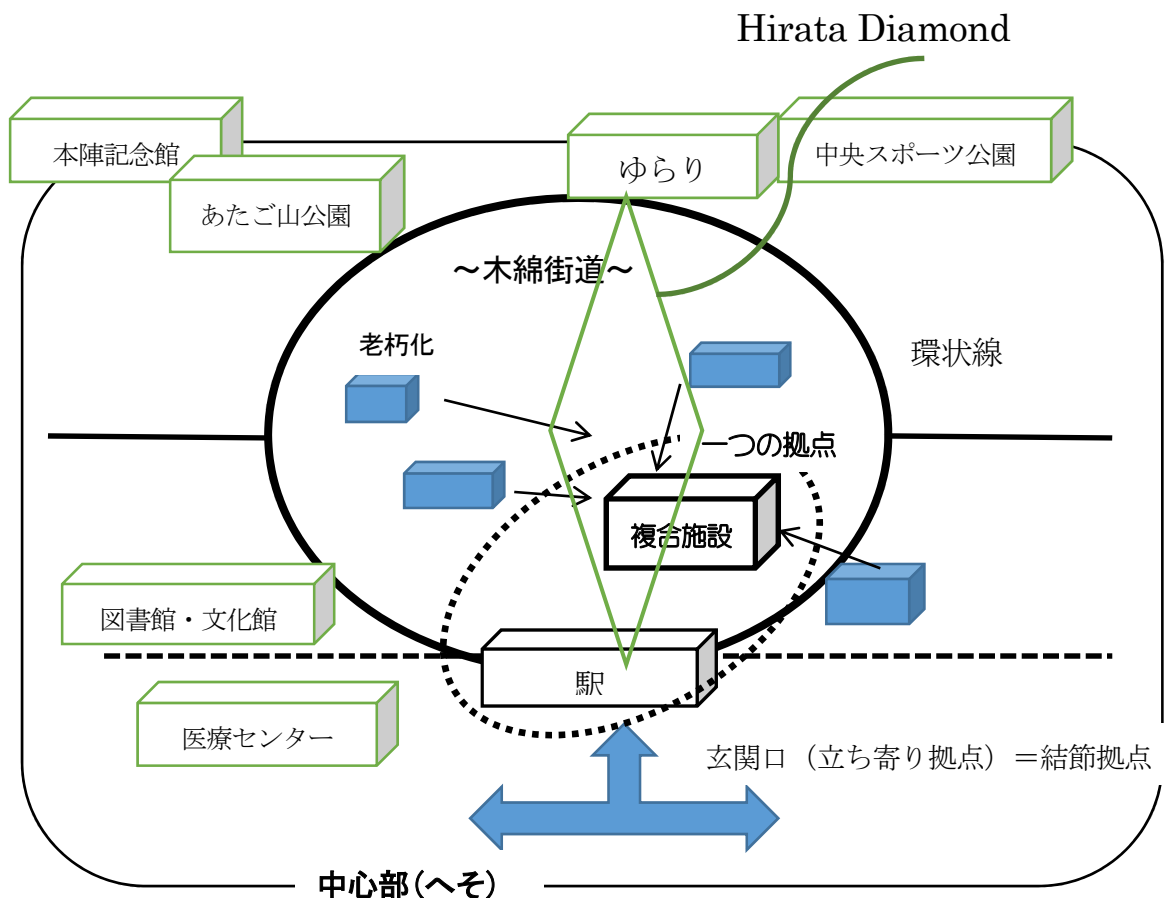
C班	「いこいと夢のまち」
キーワード	<ul style="list-style-type: none"> ・地元顧客が定着したお店、ひそかに素敵なお店が点在 ・宇美神社をもっとPR ・施設の点在により交流希薄化 ・歩き疲れる ・コミセン活発なサークル活動 ・コミセンで人の流れを生む ・オープンキッチンで観光客に振る舞い ・河川敷利用のアウトドア、健康増進施設 ・防災センター設置で安全安心なまちをアピール

※ワークショップ詳細は資料参照

②■中心部の機能強化

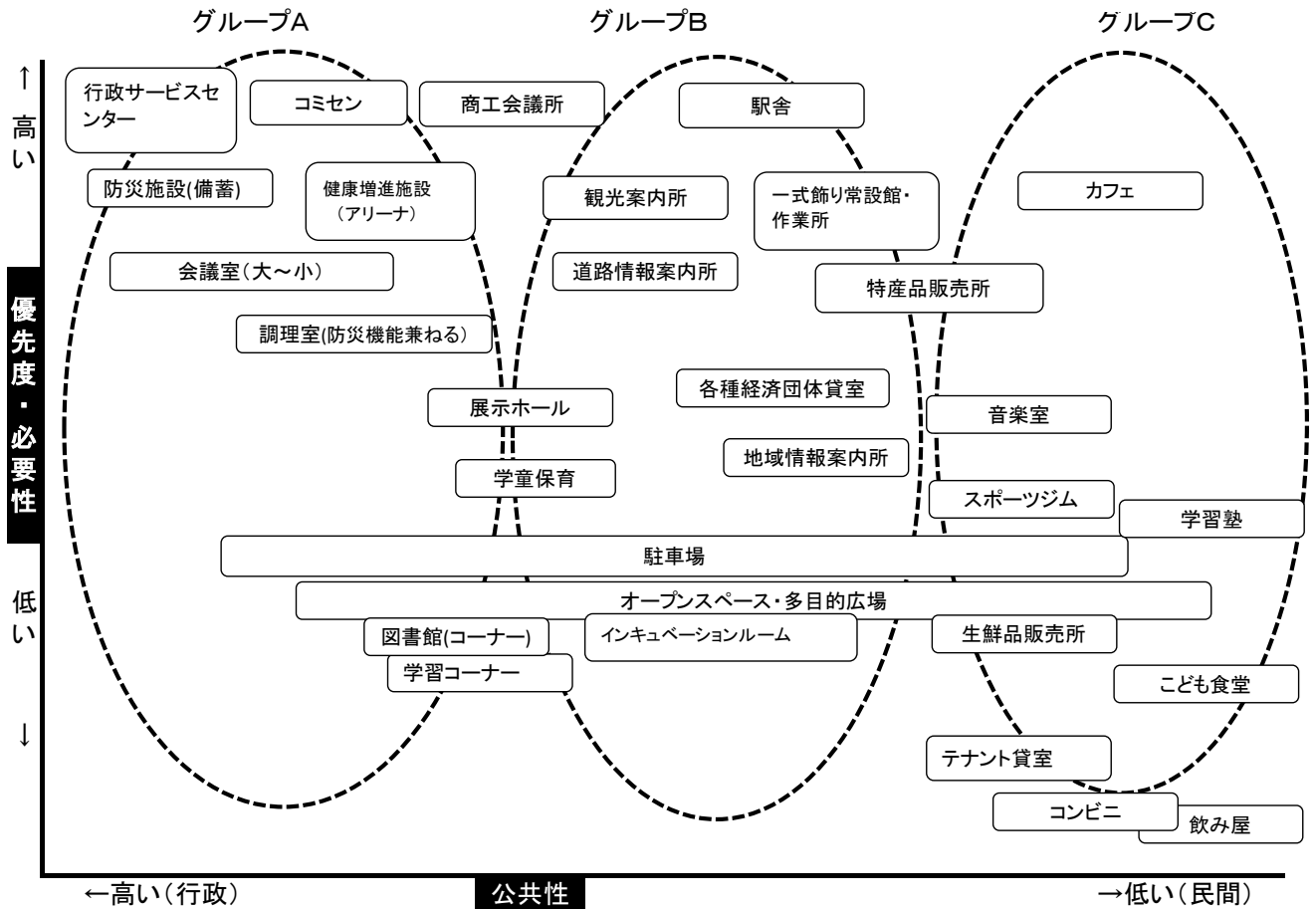
協議会及びワークショップでの検討から、**中心部の機能強化が平田地域全体の活性化に不可欠**との結論に至り、その機能について下図及び次項のとおり方向づけた。

- 環状線がある中心部（へそ）には、快適な暮らしを支える都市機能が必要。
- 中心部には木綿街道・ゆらり・あたご山公園・中央スポーツ公園・平田本陣記念館や野球場など、観光や集客の拠点があるため、観光客等が立ち寄りやすい玄関口（ゲートウェイ）機能が必要。
- 必要な都市機能のうち老朽施設については、機能の重複を整理しつつ、現在の支所周辺に新たな複合施設に集約。
- 中心部の **Diamondo(ひし形)ゾーン**が大事
- 玄関口（ゲートウェイ）機能については、駅一帯にその機能を強化、中心部への誘導だけでなく、周辺部・島根半島、さらに松江・出雲の東西動線へのハブ（結節）拠点に。
- 上記、新たな複合施設と駅は2つの別々の拠点施設ではなく、ゆるやかな一つの拠点と考える。



(本協議会の検討結果をもとに)

③ ■ 新たな拠点（複合施設＋駅周辺）に必要な施設・機能



- **新たな複合施設**…………… グループAを中心に公共性の高い機能を集約
 - 行政サービスセンター ○コミセン ○会議室 (共用、小中大)
 - 健康増進施設 (アリーナ・防災備蓄拠点兼ねる) ○調理室 (コミセン内、防災時の炊き出し機能兼ねる)
 - 市民活動施設 (展示ホール・音楽室 等)
- **駅周辺の機能強化**…………… グループBを中心に
 - 一式飾り常設館・作業場 ○観光案内所 ○道路・地域情報案内所
 - トイレ、休憩施設 ○特産品販売所・生鮮品販売所
- **拠点区域（複合施設＋駅）全体**
 - 祭りやイベントに使用できる多目的スペースも確保
 - 若者の活動をサポートする機能 (wi-fi 環境、図書・学習コーナー等) や空間 (自主活動の拠点など) も
 - 市民活動施設は若者も利用しやすく
 - インキュベーションルーム・貸し室は商工会議所とセットで検討
 - 商工会議所は、老朽度や耐震性、修繕費見込みを勘案して方向を検討

④ 複合施設のイメージ、周辺整備

- 平田の歴史をふまえ周辺の街並みと調和した建物意匠に
- 高齢者や障がい者なども無理なく使えるユニバーサルデザインの視点で
- 住民だけでなく観光客も往来する動線上にあることから、憩いや交流を意識した公園・広場などの公共空間整備を
- 町なかに河川が流れる平田の特徴を生かし、親水性のある環境整備を
- 祭りやイベントにも対応できるオープンスペースを
- 複合施設の周辺に新たな店舗が出店したくなるような良質な雰囲気を作り出せるものに

イメージ

典:「ゆすはら雲の上の
図書館」 梶原町立図
書館 高知県高岡郡
梶原町梶原



7 今後の取り組み計画

別表

8 最後に ～Hirata Diamond～

中心部の〈駅～コミセン～支所～木綿街道〉を結ぶひし形 (Diamond) ゾーンが大事であること、さらにダイヤモンドの原石は磨けば光ることから平田地域をダイヤモンドの原石にも例え、本ビジョンの副題を「Hirata Diamond」とする。

